

パラダイムシフト~かゆいところは誰がかく!?

先 日、NGOの「トランスペアレンシー・インターナショナル」が「腐敗認識指数(Corruption Perceptions Index)」を発表しました。これは、公務員や政治家の清潔度を得点としてあらわしたそうですが、ちなみに日本は前年度からひとつ順位を上げてイギリスと並んで180ヶ国中17位だそうです。これは身内びいきを差し引いても、世界中からかなり評価されているということではないのでしょうか。

で も、なかなかイメージがつきにくいので、サッカーの世界ランキングで例えてみると、17位はポルトガル(9月時点)だそうです。かなりの強豪ですよ。



一 う見ると、日本の公務員は世界的には評判がいいように見えますね。でも、日本で暮らす私たちにとっては、実際にどう映っているのでしょうか。と言っても、公務員である筆者には、なかなか客観的に判断することは難しいのでコメントはやめておきますが、新聞紙面上では毎日のように公務員や政治家の不祥事を伝える活字が躍っていますよね。時にはそのような記事が芸能記事よりも注目を浴びたりもして、この国は大丈夫なんだろうかと思ったりもしませんか？

そ もそも公務員とは何をする人なのでしょう。大げさかもしれませんが、日本国憲法をひも解いてみますと、『全体の奉仕者であって、一部の奉仕者ではない』とのこと。

“全 体の奉仕者”とは……、うがった考え方をすると、多数の幸福のためなら、少数の不幸はやむをえないことをする人……、ということでしょうか？

つ い先日、私はイギリスに行き、住民主導のまちづくりが行われて、成功している地域の公務員と話をする機会がありました。そこで、担当者の方に、

(筆者)「その成功の秘訣は何だと思いますか？」

(担当者)「役所がやらなかったからだよ！」

と一笑されてしまいました。

な んだか、その地域のいきいきとした住民や町並みを見ると、妙にその言葉に納得してしまいました。

確 かに、日本の公務員は世界的には評価はいいようですが、どうしても“全体の奉仕者”である以上、たとえどんなに清廉潔白でも、どんなに優秀でも、できることは限られてしまいます。

「自 分たちの地域のために」とか、「もっと自由に」といった良い意味での“地域エゴ”を実現させるためには、やはり住民が先導きって取り組んだほうがいいのではないのでしょうか。なぜなら、誰も自分のため、あるいは自分たちのためのほうが「がんばろう！」って思えるじゃないですか。それに、かゆいところは、なかなか人にかいてもらうことは難しいですもんね！

ち なみに、今回の文章は公務員的な堅苦しい「です・ます調」ではなく、話し言葉を意識して書いてみました。文書ひとつとっても、その違いは雰囲気や印象などでかなり変わるのではないのでしょうか。はたして、筆者の個性は感じられたでしょうか？

ぜ ひ、あなたも少しだけ発想を転換させてみて、“あなた自身の個性”を発揮するために、お住まいのまちの“まちづくり”をしてみたいはいかがですか？

(秘書課 梯 大介)

暴論オピニオン (32)

三浦市政策経営課では、行政経営全般について日頃から様々な無責任放談をしています。このコーナーではその放談の中で飛び出した暴論をご紹介します。両手を挙げて賛成できないまでも発想のヒントくらいにはなるでしょう。



自然環境と財政運営

自然環境の保全と財政運営を両立させること、これがなかなか難しい。

自然環境において、本市は三方を海に囲まれ、気候が温暖で、緑豊かな環境を有している。市民の皆様も本市の魅力は優れた「自然環境」であると自負されており、花鳥風月を大切にされる方々も多い。また、土地利用においても「風致地区^{注1}」「首都圏近郊緑地保全区域^{注2}」「神奈川県自然環境保全地域^{注3}」と区域・地域の重複はあるが市域約 3,144ha に占める環境保全関係の面積割合は大きい。

一方、財政運営に関しては、地方公共団体の財政力を示す指標である「財政力指数」は、0.779(平成 20 年度決算)と県内 17 市の平均 1.086 を大きく下回り、県下最低水準であり、財政の弾力性を示す指標である「経常収支比率」も 99.6%(平成 20 年度決算)と県内 17 市中 16 位であり、これもまた大変厳しい財政状況である。財政運営の基本となる市税と地方交付税は、歳入総額の約 52%(平成 20 年度決算)を占めているが、いずれも減少傾向である。

財政の健全化を目的として、歳出の削減を図るとともに歳入増加に取り組む必要があるが、市税収入の増加のためには現在の制度では、なんらかの負荷が自然環境にかかる仕組みになってしまっている。手付かずの自然が最適であるという立場に立てば、住宅開発、農漁業の基盤整備、観光資源としての活用、いずれもしかりである。

これまでも自然環境との調和を基本としてまちづくりを進めてきたが、税金は都市部に流入していく構造に変わりはない。そこで、地方交付税制度の見直しにより、自然環境の保全と財政運営の両立を支援してはどうか。

国の事業仕分けにおいて、「地方交付税は抜本的な

制度見直しが必要」という結果であった。ワーキンググループの評価者 18 名全員が見直しを行なうという意見であり、の中には「政策誘導を行うべきではない」との意見や「環境保全改革を地方への国家戦略として財政調整のツールとして使う」との意見もあった。

地方交付税は、地方固有の財源であり、政策誘導の手段とすべきではないが、地球温暖化防止という世界規模の目的に対する取組を評価するという考え方もあるのではないか。

現在の地方交付税算定において、行政改革の取組をインセンティブとして分配していることと同じ手法により、地球温暖化防止にも寄与する自然環境の保全に関する算定指標を追加することが自然環境の保全と自治体経営の両立の一助になるに違いない。



注 1: 都市の中での風致を維持するため、樹林地や丘陵地、水辺地等の良好な自然環境を保持している区域や史跡、神社仏閣等がある区域、良好な住環境を維持している区域等を対象に都市計画によって定められる。5 地区(県内 49 地区)、約 938ha

注 2: 首都圏近郊において無秩序な市街地化を防止し、良好な緑地を保全するため、首都圏近郊緑地保全法に基づき、国によって指定される。2 区域(全国 25 区域)、約 688ha

注 3: 自然の豊かな森林や草原などで将来にわたって残したい地域として県によって指定される。3 地域(県内 70 地域)、約 25.2ha

次号(第42号)は1月21日発行です。

「ぼっこすこせえる」とは・・・神奈川県三浦市には三崎弁と呼ばれる方言があります。「ぼっこす」は「ぶち壊す」の意味、「こせえる」は「こしらえる」という意味です。つまり、「ぼっこすこせえる」は「ぶち壊し、こしらえる」=スクラップ&ビルドという意味になります。



3S市長の経営視点

三浦市長の吉田ひでおです。皆さん、子育て応援サロン『ほっと*ハート』をご存知ですか？このサロンは、子育て支援の重要性を感じ、『何かしなければ』という想いから立ち上がったサロンで、三浦市民生委員児童委員協議会が主催し、毎月第2金曜日に岬陽小学校体育館2階で開催され、数多くの親子が参加されています。

子育ての先輩である民生委員児童委員が、お子さん達と一緒に楽しみながら過ごしている間に、若いお母さん達は安心して、他のお母さん達と話したり、子育ての先輩に相談したり・・・色々な過ごし方で、ほっとなハートをふくらませ、子育ての悩み、不安、ストレスを少しでも解消し、子育てエネルギーを充電できる場となっています。

昨今、待機児童の増加や児童虐待などといった子育てに関する問題が多く発生しているなか、子供のしつけや接し方などの悩みを抱える若いお母さん達のために行われている、行政主導ではなく市民主導、そして世代を超えた交流による「あったかいまち」づくりの実践を垣間見ました。

この様な取組を見て、自然と「何か後押ししたいなあ」という“ほっと”な気持ちが湧き上がってきました。今後もこの様な取組が様々な分野で起こり、成果をあげ、定着していくことを楽しみにしています。